

「化学物質と環境リスクに関する理解力の向上とその取組に向けて」

- 化学物質に関するリテラシー向上に向けた人材育成が重要との議論から、第9～13回政策対話で議論された内容を取りまとめたもの。

1. 化学物質と環境リスクに関する理解力を身に着けることの重要性

- ✓ 化学物質のライフサイクル全体を捉えて、その利便性を享受しつつ環境リスクを適切に管理していく観点から、環境リスクを理解する力を身に付けることが極めて重要。
- ✓ 行政、事業者、教育機関等の様々な主体が、「化学物質と環境リスクに関する理解力」を身に付ける機会を提供し、市民をはじめとする化学物質の利用者がその力を向上させ、化学物質に関する基本的素養を高めることにより、化学物質の選択や使用、廃棄の際に、自ら環境リスクを適切に判断し、低減するための行動につなげることが期待

2. 様々な世代・主体の参加

- ✓ 化学物質と環境リスクに関する理解力の向上に向けた基盤として、以下が重要
 - 各主体間の情報共有を推進すること
 - 化学物質を適切に管理し活用していくための学校教育 や社会人教育などを推進し、ライフステージに応じた 人材育成を図ること

3. 各主体及び主体間連携による取組

- ✓ 各主体に対して期待される役割として以下が整理
 - 行政**：最新の情報を反映したガイドブック等の内容の更新、リスク評価に必要なデータベースや環境リスク評価・提言取組の事例集等の拡充、地方公共団体や他の主体との連携
 - 事業者**：中小事業者における従業員のスキルアップ、環境マネジメントシステム等への環境リスクの考え方の浸透、企業内外の専門家に求められるスキル・知識の在り方の検討推進
 - 教育機関**：教科等横断的な視点で児童生徒の発達段階に応じて学習内容の工夫、社会人教育も含めて大学等の高等教育機関の教育体制及び内容を充実させること
 - 市民**：市民、行政、事業者、教育機関等の各主体による活動のつなぎ手となること
 - 主体間連携**：事業者同士、事業者と市民など、互いの情報共有に対する期待や課題を相互にわかりやすく伝え合うこと

4. 将来に向けた視点

- ✓ 化学物質と環境リスクに関する理解力の向上に向けた教育・人材育成の取組だけでなく、各自が行動するためのシステムを主体間連携により形成していくことが期待